



動物レスキュー通信

2018年11月 第66号 (平成30年11月1日発行)

発行元

一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ : szuku.foundation@gmail.com

風邪は万病のもと

本当は怖い猫風邪



朝晩はめつきり冷え込み、一日の気温差が激しいこの時期はとても風邪をひきやすい季節です。これからは空気もどんどんと乾燥し、ウイルスにも感染しやすい時期です。そこで今回は猫風邪についてお話し下さい。うつと想います。みなさんは「風邪」と聞くとどんなイメージをお持ちですか?」軽い病気「そのうちに治る」などのイメージを持つているかもしれません。しかし昔から「風邪は万病のもと」と言われていますが、「この言葉は風邪を引くと、さまざまな病気を引き起こすから、軽く見ていけない」という戒めです。猫風邪は人の風邪に似ていますが違う病気で、重症化すれば命に関わる怖い病気です。では、猫風邪とはどんなもののが見て行きましょう。

猫風邪ってどんなもの?

猫風邪は主に猫ヘルペスウイルス感染症と猫カリシウイルス感染症の事を指します。これらのウイルスが猫の鼻やのどから感染し、炎症をおこし鼻水やくしゃみなどの症状をもたらします。この点は人間の風邪とそっくりです。しかし人間の風邪を引き起こすウイルスと猫風邪を引き起こすウイルスは全くの別物ですので、猫風邪が人間にうつる、逆に人間の風邪が猫に移る事は有りませんので、ネコちゃんを隔離したり、接触を減らすなどの必要はありません。猫風邪の初期症状は透明な鼻水、くしゃみ、涙、目ヤ一です。症状が進んでくると鼻水がドロツとし鼻詰まりが起き、目が充

血してたり腫れる事もあります。又、口の中が炎症し、腫瘍ができる事によって食欲がなくなる事もあります。発熱やくしゃみ、元気がなくなってしまいます。このように症状が進んでしまわない初期症状のうちに獣医さんに診てもらいましょう。私が以前、瀕死の状態で保護した子ネコは保護した時点で両目がくっ付いて閉じてしまつていました。すぐに獣医さんに診てもらいましたが猫風邪が原因で目や二が固まつて目が開かなくなっていると言われました。その後、片目は何とか回復しました。その後、片目は回復が不可能な状態でした。結局、その子はバルボウイルスにも感染していましたため、1ヶ月ほどの短い命でしたが、猫風邪は視力を無くしてしまつほどの恐い病気だと、その時はじめて知りました。この子のように猫風邪のウイルスに感染し、炎症を起こした所から更に他の細菌などが入り込んで二次感染する事により、より症状が複雑になり重症化する可能性があります。食べ物が飲み込めなくなり衰弱したり肺炎を「じらせてしまい命を落とす可能性があります。子ネコや老ネコは免疫力が低く、体力がないため、二次感染の可能性が高いので、特に注意が必要なのです。そして猫風邪の恐ろしいところは、決して完治はありません。一度、猫風邪にかかるてしまうと、獣医さんの治療は症状を軽くする事、それによってネコちゃん自身の免疫力を大いに發揮させ、症状を抑えます。特効薬はありません。一度、猫風邪にかかるてしまうと、このウイルスは症状が治まった後も体内に潜んでいます。要するに猫風邪にかかる

予防できること本当?

猫風邪には予防できるワクチンがあります。しかしこのワクチン、あくまで猫風邪を予防するのですから、猫風邪を発症してしまつてからでは何の意味もありません。ウイルスを撃退できるわけではありません。しかしこのワクチン、あくまで猫風邪を予防するのですから、猫風邪を発症してしまつてからでは何の意味もありません。しかし猫風邪を発症する前ならば、定期的にワクチンを接種すれば、万が一感染してしまつても、少し鼻水やくしゃみなどの症状は出るもの重複化する事はなく、1~2日で回復します。人間のインフルエンザワクチンのイメージと似ていますね。

ネコちゃんがかかるてしまつと最悪の場合は命に関わる可能性のある風邪。その事を知り、予防や症状を引き起こさない環境を作つてあげる事によつてより一層、ネコちゃんとの絆が深まり、幸せなネコちゃんが増えると信じております。(詩月)